

ひまわり教室在籍の保護者様

江東区立臨海小学校ひまわり教室

保護者会ありがとうございました

先日はご多用の中、令和7年度第2回保護者会にご参加いただき、誠にありがとうございました。
今回の保護者会では、「将来の自立に向けて ~親の願望から『この子ありき』への転換が子どもをさらに伸ばす~」をテーマに、片山裕子さんを講師にお迎えし、ご自身の子育て経験をもとにお話を伺いました。

特に、

- ・「失敗をさせない関わり(予習)」から「軽い失敗を経験し、
自分で処理する力を育てる関わり(振り返り)」への転換
- ・ 偏差値や世間体ではなく、子どもに合った環境や安心できる居場所を大切にすること
- ・ 親が先回りし過ぎず、そっと手を離して見守る勇気

といった点は、とても心に残る内容でした。

講演では、対話形式で幼少期から現在に至るまでの成長の過程において、具体的なエピソードを交えながら、感覚過敏への対応、家庭での関わりや療育の工夫、小学校・中学校・高校・大学と成長段階ごとに直面した課題と、その都度大切にしてきた考え方についてお話しいただきました。



◎幼少期・小学校時代 ~感覚過敏への理解と根気強い支援、挑戦の機会を積み重ねることの大切さ~

「失敗させないための(自己肯定感を下げさせないための)予習の毎日から、軽い失敗を自分で処理できる訓練へ。」

「親が見栄を張ってしまったり、世間体を気にしてしまったりすると二次障害になる。

親の欲をいかに抑えられるかが、最大のテーマ。」

「その子に合った環境で最適な療育を受けること。」

「寝ているとき以外は家で療育をしていたが、放課後等デイサービスの活用で大きく成長。自分にも心の余裕ができた。」

◎中学校・高校時代 ~清潔感や身だしなみ、人との距離感など、社会性につながる力を身に付ける重要性~

「いくら言っても歯を磨かなかったけど、クラスメイトからの『口臭い』の一言で磨くように。守ってばかりではダメ。」

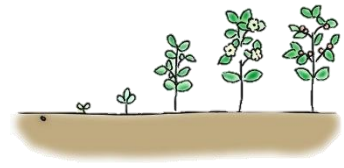
◎社会人 ~社会と馴染むために必要な「常識の範囲」や、家庭の継続的なサポートの大切さ~

「社会と馴染むためには、①身なりを最低限整える。②体臭などのエチケットを守る。③適材適所、

これらが守られていればお互いに気持ちよく働くことができる。特に身なりと体臭に関しては、家族のサポートが必須。」

また、片山裕子さんよりこれからの子育てを考える上での大切なメッセージを多くいただきました。

- 成功の反対は、行動を起こさないこと。
- 失敗やチャレンジの積み重ねが、こどもの力になる。
- 親の関わり方一つで、こどもは大きく伸びる。
- 環境が整うと、力を惜しみなく発揮できる。
- 親は褒めて伸ばすより、いかに感情的にならずに注意するかが大切。感情的に注意されると、恐怖しか入ってこない。得られることは0。むしろその後失敗の連続になる。そうなると同じ行動を起こすことに尻込みする。失敗しても大丈夫だという思いがチャレンジ精神を生む。
- わたしたちは、過保護・過干渉になりがちだが、そっと手を離して見守るようになると、こどもたちはどんどん自ら芽を出していく。その勇気を出すことがとても難しい。褒めるほうが実は簡単なこと。
- 「親の自分が全部やらなきゃ」は、自分もこどももお互いに苦しくなるときがある。我が子のことを一緒に考えてくれる協力者に任せ、物理的な距離をとり、自分の心に余裕をもたせることも大切。



終了後のアンケートでは、ご参加の皆様より(抜粋)



- ・「今は息子の心の安心の種をまく時期」と改めて実感しました。
- ・「心に余裕があった方が良い」という言葉に改めて考えさせられました。
- ・「余裕をもつ」「点数より生活力」「コミュカ」を胸に、今日からこどもと向き合います。
- ・発達障害と一言と言ってもこどもによっても様々。私も片山さんがされていたように、こどもをよく観察し「私のこどもの必要なこと」をこれからも探していこうと思いました。
- ・親としての予習として大変参考になりました。「心の余裕」「生活力」「得意」考えていきたいと思います。
- ・小さいところから、本人を信じてこれからも向きあえたら良いなと思います。

というご感想をいただきました。

今回の保護者会が、日々の子育てやお子様との関わりを振り返るきっかけとなりましたら幸いです。

今後も、保護者の皆様と連携しながら、こどもたちの成長を支えていきたいと考えております。引き続き、ご理解とご協力をよろしくお願いいたします。